

令和元年度

事業所名： グループホームよろこび よろこび館(A棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルーテ		
事業所名	グループホームよろこび よろこび館(A棟)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町字門水上29番19		
自己評価作成日	令和元年10月7日	評価結果市町村受理日	令和元年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一人として利用者様、家族様との信頼関係を築きながら、利用者様に自宅にいるような安心感と、その人らしく元気に笑顔で生活できる環境づくりを、地域や行政に協力いただきながらスタッフ一同力を合わせて取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0393000138-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは自然豊かな岩泉町門地区に設置された開設3年目の2ユニットのグループホームである。理念である「家庭的な雰囲気を大切にし穏やかに、家族や地域との結びつきを大切に」に沿って、利用者に寄り添った介護を行っている。ホームに対する地域住民の関心も高く、災害時の地域からの協力体制も整いつつあり、ホームにとっても心強いものとなっている。広報誌を地域の約100戸にも回覧して事業所の様子をお知らせし、地域ぐるみの防災訓練にも参加するなど、地域との連携に注力している地域にとっても頼りがいのあるホームとなりつつある。隣接地に新築した別棟には備蓄品を保管するほか、多目的室を整備して地域住民の交流や避難場所としての活用も構想しており、地域の福祉の拠点となることを目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホームよろこび よろこび館(A棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考え作成した理念に沿った介護ができるよう努めている。玄関ホールや各棟に掲示している。	ホームの理念を「穏やかにその人らしい毎日を笑顔で暮らせるよう寄り添います。家族や地域との結びつきを大切に開かれたホーム作りに努めます」とし、ホールに掲示するほか、職員会議で再確認している。言葉遣いの問題でも話題として、お互いに注意しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域に情報発信し、行政や地域住民から意見をいただき交流している。	ホームの広報誌を地区内の約100戸に回覧してPRに努めている。保育園児や小学生が来所して利用者と交流したり、地域の婦人会は毎月来訪して歌や踊りを披露している。今年は町主催の防災訓練にも参加し、消防団や民生委員、近隣住民との連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で事例を揚げ、理解していただくよう努めている。これから「認知症カフェ」等も開催を計画し、地域の理解を深めていくよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方々の意見をいただいたことで、施設からの発信の重要性に気づき、抱えている課題についてのアドバイスや意見を参考にして実践している。	民生委員の他、消防団や駐在所、老人クラブ、町内会代表者が参加し、地域との連携を重視した構成となっている。委員からは広報誌を回覧してはどうかとか、避難訓練時に利用者には周囲に分かりやすいベストの着用提案があり、改善に結びつけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、長寿支援室との情報を密にし、困難事例の相談や連絡を常に行っている。直接来所してもらったこともあったため、日頃から、連絡を密にした顔の見える関係作りの大切さを感じている。	運営推進会議には地域包括支援センターから毎回参加して頂いているほか、町主催の地域ケア会議や研修会にはホームの職員が参加している。また、年2回は町の介護支援運営協議会に参加して、関係機関との情報交換も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会(3カ月に一回以上)、身体拘束職員研修(年2回)、新人研修はその都度行い、地域包括支援センターの研修も行った。	身体拘束適正化委員会は、3カ月毎に主な職員が参加して開催している。地域包括支援センターの職員から研修の一環として話を伺う機会もある。家族の了解を得て、転倒防止のためのベッドセンサーを1人が使用している。今年から職員アンケートに取り組み、スピーチロック等の改善に活かすこととしている。	身体拘束適正化委員会は、運営推進会議や避難訓練などの併催という形で開催可能なことから、幅広い意見等を集約できるよう、より工夫した開催を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	精神的、言動的な虐待にも十分注意するよう、研修会やミーティングで取り上げ、防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加や、勉強会で職員全員で学び理解できるようにしていきたい。権利擁護推進員養成研修に参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明が不十分にならないよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の職員が、地元の方々から意見や質問を聞いた時はすぐ管理者に報告し解決するよう努めている。家族とは面会の時に、気兼ねなく管理者や職員と話してもらい、そこから意見をいただけるよう努めている。	大半の利用者が言葉で意思表示できる状態にあり、散歩したいとか食べ物などに関する希望が出され、可能な限り叶えるように対応している。毎月の請求書を送付する際に利用者の様子をご家族に伝え、野菜作りをさせて欲しいとの要望などを家族から頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング、リーダー会議等から出た意見を現場や運営に反映できている。	職員からは毎月の職員会議だけではなく、日常的に意見等が出され、必要に応じ会社に伝えている。職員の意見から、トイレの手拭きを紙の使用から地域の方が作っている手作りタオルに変更するなどの改善がなされている。個人面談は年1回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員との面接を定期的、必要時には必ず行い個々の現状把握に努め、環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの希望や必要性に応じて研修を受けられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事見学や交換研修を行うことで、自施設のサービス向上のための参考となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が関わり方を統一したうえで会話し、不安なことや希望を聞き、安心してもらうための関わり方を話し合い、心の変化に合った対応をするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みをされる時や入所決定時の家族の心情を察し、不安なことや要望をしっかり聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家族の事情を聞いていたうえで、サービスの情報や相談を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状態に合わせて、その人らしさを大切にし、家族の一員と思ってもらえるような関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡や相談を密にして本人と家族を共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の顔なじみの美容院へ出かけたり、近所の知人が行事に参加したり、記憶に残っている地域の周辺を散歩したりしている。	最近、近くにある2カ所の産直施設が馴染みの場所となっており、良く野菜やおやつなどの買物に出かけている。地区内の美容院を馴染みとしている方もいる。盆や正月には家族と自宅に外泊したり、墓参りして来る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安そうな時には、となりの棟にいる顔なじみの方を訪問し会話を楽んでもらったり、共通な会話で利用者同士が関わり合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所や電話で経過や相談の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりの中から、希望や意向を聞き取るが、困難な場合は言動を観察し情報を出し合い検討している。	多くの利用者は意思表示を出来る状態にあるが、職員は言葉以外にも、利用者が興味を示したのを感じ取ったり、動作から思いや意向を読み取るようにしている。その他、家族からの話なども参考に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の記憶や家族から、馴染みの物や趣味の情報を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が観察し、しっかり申し送りを行い、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態の変化や課題に応じた支援方法をケアカンファレンスで話し合い、計画作成に反映している。	介護計画は短期では3ヵ月毎、長期では6ヵ月毎に見直しをしている。プランの原案は管理者と計画作成担当者が作成し、毎月の職員カンファレンスで、モニタリングに基づいて確認し合いながら決定している。決定の際はご家族から意見を伺い了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノートなどに記入し、職員間で共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診など、家族の事情に合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容室を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が遠方にいる方以外でも、施設までが遠い、冬場は心配という家族には受診支援をしている。	ほぼ全員の方が、入居前から利用している町内の済生会病院をかかりつけ医としている。通院は家族対応としているが、職員が付き添う場合も半数近くとなっている。訪問診療の対応はない。歯科は地元の歯科医院を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職は不在になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員、担当看護師への情報提供や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合の限界を説明し了解していただき、現次点で重度化している利用者の家族への説明も行い了解を得ている。介護度3の段階で特養等の申し込みを進めている。	重度化した場合の対応については、予め入居時に家族等に説明している。急変時は救急搬送となるが、重度化した場合には特養施設等への変更となるケースが多い。看取りについては、希望する方もいるが、現状では協力医師の確保ができないため、困難な状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED訓練、応急処置の訓練を予定している。 (R元年・11/15の予定)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災への取り組みとして、地域との協定を結ぶための話し合いが行われ、8月には地域の防災訓練に参加した。	事業所は、ハザードマップ上で浸水や土砂崩れの危険区域とはなっていない。年2回の避難訓練は消防署も立会って行っている。夜間想定訓練は12月に実施予定である。町から無料の防災通信機器が配布され、地元からは民生委員の他、4、5名の協力者がおり心強い。先日の台風では宿直者を1人増員して対応した。	夜間想定訓練の実施は大切であり、夕方の暗くなる時間帯での実施とするなど、発災時であっても、職員全員が自信を持って対応出来ることを目指した訓練になることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の身心状態に合わせた声掛けをするように努めている。職員の言動については、常にミーティング等で取り上げるようにしている。	プライバシーについては、特に排泄時や入浴時に配慮してケアを行っている。トイレ誘導時には、周囲に分からないように、様子を見ながらそっと声掛けするなどしている。また、居室への入退室時にはノック又は声掛けを行っている。同性介助の希望にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認し、本人が自己決定できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間が時々遅くなってしまふ方は、食席の場所を考え、周りの方を気にせず食べてもらうなど配慮したり、本人の状態を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのある衣類、ヘアスタイルなどのおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園の野菜の水やりや収穫をしたり、季節の野菜の下ごしらえに参加したり、片付けや食器拭きを一緒に行っている。その人が得意なことは参加の声掛けを行っている。	献立は職員が利用者の希望も取り入れて立てており、調理も職員が行っている。食材は地域の商店から主に調達するほか、生協や産直も利用し、また、ご近所からの差し入れも多い。利用者は下ごしらえや盛り付けなどを手伝っている。外出して道の駅や回転すし等の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録して毎日確認し、水分を摂らない方への対処法(好みの飲み物にするなど)も相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行うことができている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの習慣や状態に合わせた支援を行っている。	現状は、全体でオムツ使用者が1人、リハビリパンツとパット使用が11人で、布パンツで自立の方が6人となっている。また、夜間にポータブルトイレ使用者は4人いる。排泄チェック表をもとに適時な声掛け誘導とケアを行っており、現状維持が多いが少し改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、運動、服薬の管理など、一人ひとりの状態を把握しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせ、拒否のある場合の方の誘導方法を職員間で話し合い入浴を楽しめるよう支援している。	週2回以上の入浴を基本とし、1人平均30分程度の時間を、職員との会話を楽しみながら過ごしている。入浴を嫌がったり同性介助の希望もあり、その都度対応している。ゆず湯や足浴なども行い、利用者が楽しめるよう工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々利用者様の状態に合わせた支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬と薬の変更時には説明書を職員全員が確認し理解し、体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に、得意なことがある方には参加できるよう声掛けを行っている。一人ひとりの趣味や嗜好を把握して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や外泊、近所までの散歩を楽しんだり、家族が遠方にいる方も施設のドライブや買い物を楽しまれている。	ホームの外で外気浴を楽しんだり、周辺を散歩する利用者が多い。ホームの下方にある集落まで往復する方もいる。家族が来て、通院の帰りに外食を楽しむこともある。ホームのドライブでは、町内のお花見や職員宅へ出向いての栗拾い、早坂高原の紅葉見物などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば少額を自分で管理してもらい、訪問販売車や自販機から購入してもらっている。家族からの預かり金は事務所の金庫で管理し、必要な時には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる壁飾りや、利用者様同士の関係や身体状況を考え、一人ひとりの過ごし方に合わせて、居心地の良い安全な空間づくりに努めている。	食道とリビングを兼ねたホールは、日当たりが良く明く、眺望にも優れている。そのリビングで、利用者は大型テレビやカラオケを楽しんでいる。ホールの壁には季節感のある飾りつけや手作りの折り紙などの飾りつけがなされ、暖かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間が欲しい時には自室で過ごしたり、日当たりの良い場所に腰かけて気の合う同士で話をしたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を確認しながら、家族に確認してもらい工夫している。本人の状態によって配置を変えたり、自宅で使用していたテレビや筆筒を置くなど、安心して過ごせるように工夫している。	居室にはベッドと小筆筒が備付けられ、エアコンで温度調節がなされている。利用者は馴染みの家族写真や、外出時の写真などを飾っており、清掃も行き届いて、各利用者にとって居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の廊下には手すりが設置しており、現場に職員からの提案で浴室の入り口に新たに手すりを設置してもらい、本人が見守りで安全に浴室に入室することができるようになった。		